

環境報告書

2025

報告対象期間 2024年4月1日～2025年3月31日



東京外国语大学
Tokyo University of Foreign Studies

CONTENTS

一目次

TOP MESSAGE	1
1. 大学概要	
東京外国语大学のミッション	2
数字 学生数・教職員・数建物一覧	2
教育研究組織	3
運営組織	3
2. 環境パフォーマンス	
過去 5 年におけるエネルギー使用量	4
過去 5 年における温室効果ガス排出量	5
過去 5 年における水道使用量	5
過去 5 年におけるコジェネレーションシステムによる発電及び排熱の回収	6
過去 3 年における紙使用量	7
過去 3 年における産業廃棄物排出量	7
グリーン購入の状況	8
3. 環境配慮への取り組み	
照明器具LED化による省エネルギー対策	9
高効率な空調機への更新による省エネルギー対策	10
太陽光発電設備による創エネルギーの取組	11
マイボトル用浄水給水機について	12
4. その他の取り組み	
グラウンド人工芝敷設	13
グラウンド人工芝マイクロプラスチック流出対策調査	13
[取組「カーボンニュートラルに向けて」]	14



TOP MESSAGE

東京外国語大学は、持続可能な共生社会づくりへの貢献を使命に掲げています。その一環として、地球温暖化への対策となる「カーボンニュートラル」の達成に向け、具体的には「大学が使用するすべての電力について、2030年度までに自然エネルギー電力への変換（生産又は調達）することを目指す」と宣言しています。

この目標に照らして2024年度の実績を振り返ると、本学の温室効果ガスの排出量は、2023年度と比較して、率にして18%の有意な減少を記録しています。照明器具のLED化やエネルギー効率の高い空調機への切り替えによる省エネルギー、あるいは、太陽光発電設備の設置による創エネルギーといった地道な努力が、一定の効果をあげているのは確かです。

しかし、2割近い排出量削減の結果を得た最大の要因は、大学の自助努力ではなく、大学が契約している事業者が利用する発電方法の変更です。この事実にカーボンニュートラルをめざす取り組みの難しさが端的に表れています。実際のところ、東京外国語大学は、主体的に最適な手段を選択して排出量の削減を推進する自律性を十分に手にしてはいません。

社会の仕組みと個人の生活を改善する自律性の獲得こそ、教育の目的です。東京外国語大学は、今後も可能な範囲内でカーボンニュートラルに向けた自助努力を着実に継続していくにとどまらず、持続可能な共生社会の創出に寄与する高等教育機関として、地球的課題に取り組む意思と能力を身につけた人材の育成に邁進していきます。

私自身が「ゼミ」で指導した学生のなかにも、持続可能な社会の実現をめざし、学生団体「たふえね」の活動を経て、卒業後は職業として再生可能エネルギーの開発に携わっている者がいます。このような意志と意欲をもって本学を巣立つ若者が、今後、増えていくと期待しています。

東京外国語大学の短期的な努力と長期的な取り組みに対して、皆さまより有形無形のご支援を賜れますと幸いです。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



国立大学法人 東京外国語大学

学長 春名 展生

1. 大学概要

■ 東京外国語大学のミッション

多文化共生に寄与する東京外国語大学

東京外国語大学は長きにわたり、世界の言語とそれを基底とする文化、世界諸地域や国際的な問題について、研究と教育を行ってきました。

建学150年を超える、世界諸地域の言語・文化・社会に関する高等教育の中心として、また、学際的研究拠点として、その役割をさらに明確にします。

多言語多文化化する日本と世界で、人々の共生に寄与する人材、そして地球的課題に取り組むことのできる人材の養成を目指します。また、大学として、共生社会の実現に向けた社会貢献事業に取り組みます。

■ 数字

・ 学生数 (2025年5月現在)

学部在籍者数

学部	1年	2年	3年	4年	総計
言語文化学部	344	372	394	552	1,662
国際社会学部	355	386	416	568	1,725
国際日本学部	87	83	91	111	372
計	786	841	901	1,231	3,759

大学院在籍者数

大学院総合国際学研究科	1年	2年	3年	計
博士前期課程	132	151	-	283
博士後期課程	40	43	128	211
計	172	194	128	494

・ 教職員数 (2025年5月現在)

役員等	9名	
教員	246名	(役員含む)
職員	138名	(役員含む)
計	393名	

・ 建物一覧

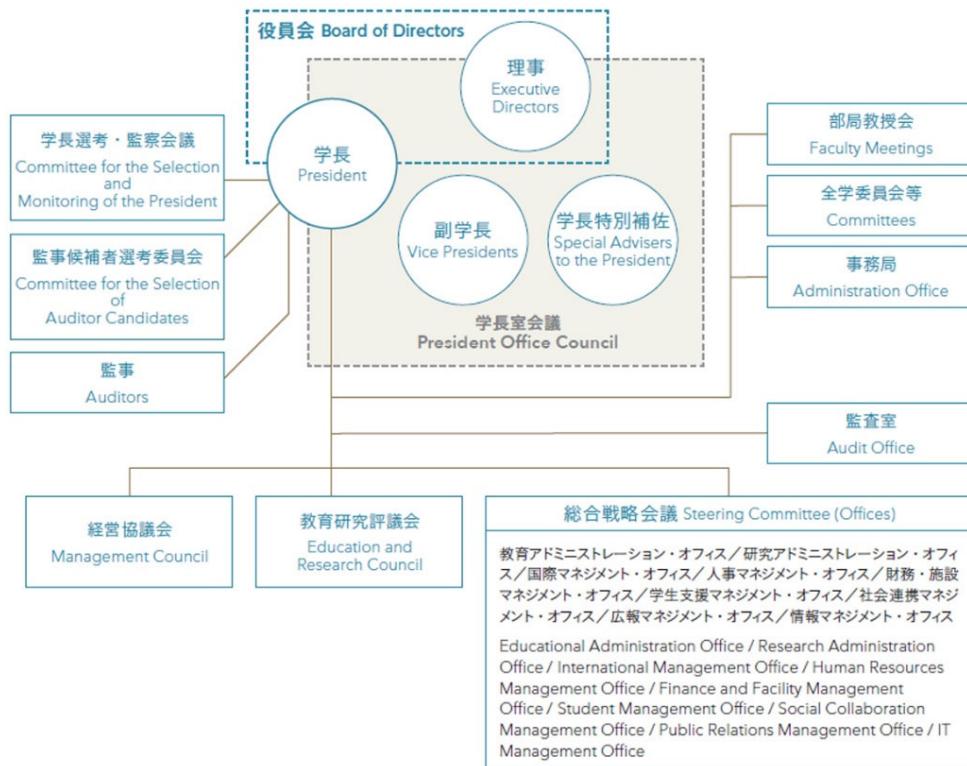
No	建物名称	建物構造	延床面積 (m ²)	完成年
1	研究講義棟	SRC8-1	28,076	2000
2	附属図書館	RC4	6,820	2000
3	大学会館	RC2	2,770	2000
4	保健管理センター	RC1	458	2000
5	車庫	RC1	107	2000
6	屋内運動場	RC5-1	5,720	2001
7	アジア・アフリカ言語文化研究所	SRC8	7,610	2001
8	本部管理棟	RC5-1	3,927	2002
9	弓道場	RC1	198	2002
10	器具庫	RC1	240	2002
11	留学生日本語研究センター	SRC6	5,510	2003
12	国際交流会館（1号館）	SRC7-1	3,270	2004
13	国際交流会館（2号館）	SRC6	2,798	2006
14	アゴラ・グローバル	RC3	2,949	2010
15	国際交流会館（3号館）	RC8	5,045	2013

大学概要

■ 教育研究組織

学部教育組織	言語文化学部 School of Language and Culture Studies 国際社会学部 School of International and Area Studies 国際日本学部 School of Japan Studies	学内研究組織	国際日本研究センター International Center for Japanese Studies 現代アフリカ地域研究センター African Studies Center 南アジア研究センター South Asia Studies Center TUFS地域研究センター TUFS Area Studies Center TUFSフィールドサイエンスコモンズ TUFS Field Science Commons
大学院教育組織	総合国際学研究科 Graduate School of Global Studies 博士前期課程 Master's Programs 世界言語社会専攻 Global Studies Program 国際日本専攻 Japan Studies Program		ワールド・ランゲージ・センター World Language Center LINGUAテストセンター LINGUA Test Center 英語学習支援センター English Learning Center CEFR-J推進室 CEFR-J Office
	博士後期課程 Doctoral Programs 世界言語社会専攻 Global Studies Doctoral Program 国際日本専攻 Japan Studies Doctoral Program 共同サステナビリティ研究専攻 Joint Doctoral Program for Sustainability Research		教育情報化支援センター Multimedia and Computer-Aided Education Support Center
予備教育組織	留学生日本語教育センター Japanese Language Center for International Students		教育情報化支援室 Educational Information Support Office オンライン教育支援室 Online Learning Support Team
教員組織	大学院総合国際学研究院 Institute of Global Studies 大学院国際日本学研究院 Institute of Japan Studies 世界言語社会教育センター World Language and Society Education Center		留学支援共同利用センター TUFS Student Mobility Center アカデミック・サポート・センター TUFS Academic Support Center 国際メディア情報センター TUFS Media Center 国際教育支援室 International Education Support Office
大学附置組織	アジア・アフリカ言語文化研究所 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa 情報資源利用研究センター Information Resources Center	研究支援組織	学際研究共創センター Center for Transdisciplinary Research, Networking and Dialogue
大学附属組織	附属図書館 Library	学生支援組織	グローバル・キャリア・センター Global Career Center ボランティア活動スペース Volunteer Action Space 学生相談室 Student Counseling Room
学内共同利用組織	保健管理センター Health Care Center 総合情報コラボレーションセンター Information Collaboration Center ハラスメント相談室 Harassment Consultation Office		TUFSオープンアカデミー TUFS Open Academy 大学文書館 TUFS Archives
	語学研究所 Institute of Language Research 総合文化研究所 Institute of Transcultural Studies 海外事情研究所 Institute for Global Area Studies 国際関係研究所 Institute of International Relations	社会連携等組織	東京外国语大学出版会 TUFS Press 次世代日本語教育DXセンター Japanese Language Education Digital Innovation Center 多言語多文化共生センター Center for Intercultural Studies

■ 運営組織



2. 環境パフォーマンス

■過去5年におけるエネルギー使用量

使用しているエネルギー種別は電力・都市ガスです。

2024年度のエネルギー使用量は2023年度から電気で1.9%減、都市ガスで21.8%増となり、原油換算量では、2023年度と比較して3%増となりました。

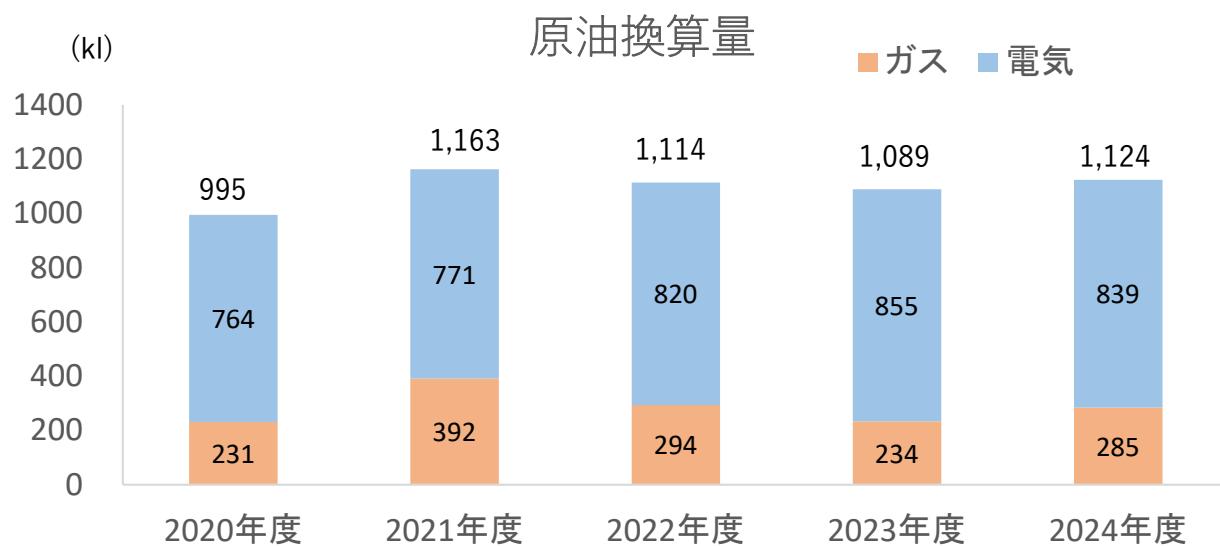
※本学はエネルギー使用量が東京都環境確保条例に定められる大規模事業所(原油換算した使用エネルギーが3ヶ年度連続で1,500kL以上となる事業所の基準を下回ったことから、平成28年に大規模事業所の指定が解除されています。

<エネルギー使用量の推移>

エネルギー種別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
電力(kWh)	3,031,077	3,063,870	3,257,784	3,397,572	3,333,516
都市ガス(m ³)	199,141	337,560	253,077	201,360	245,325

<原油換算量> (kl)

エネルギー種別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
電力	764	771	820	855	839
都市ガス	231	392	294	234	285
計	995	1,163	1,114	1,089	1,124



■過去5年における温室効果ガス排出量

直近5年においては概ね1,950 t -CO₂前後にて推移しています。

前年度より低下した要因としては、電力のCO₂排出量算出のための係数（契約先事業者の発電方法により変動）が低くなったためです。

<CO₂排出量の推移>

エネルギー種別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
電力	1,482	1,462	1,434	1,532	1,163
都市ガス	433	739	554	473	488
計	1,915	2,201	1,988	2,005	1,651



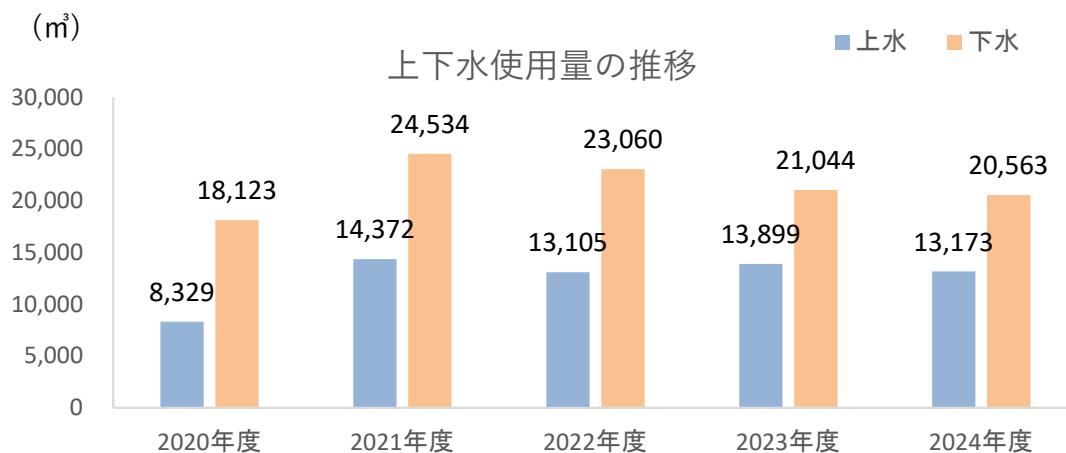
■過去5年における水道使用量

2024年度の上下水道使用量について、前年比3%減となりました。

雨水をトイレの洗浄水として再利用しているため、上水より下水使用量が多くなっています。

<上下水道使用量の推移>

種別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
上水 (m ³)	8,329	14,372	13,105	13,899	13,173
下水 (m ³)	18,123	24,534	23,060	21,044	20,563



■過去5年におけるコジェネレーションシステムによる発電及び排熱の回収

370kW(389kVA)の定格出力を有したガスエンジン式のパッケージ形常用発電機(×2台)が研究講義棟の地階に設置されており、発電時に発生する排熱をガス焚きの吸収式冷温水発生機で利用するコジェネレーションシステムが冷暖房期に稼働しています。

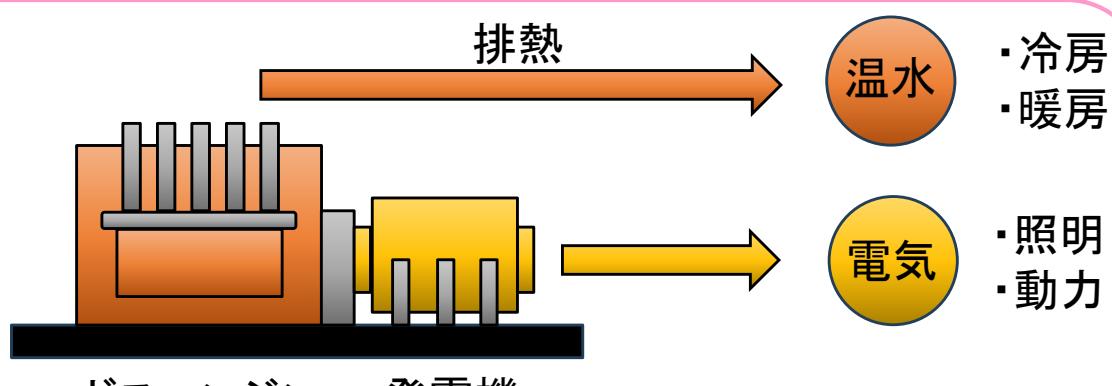
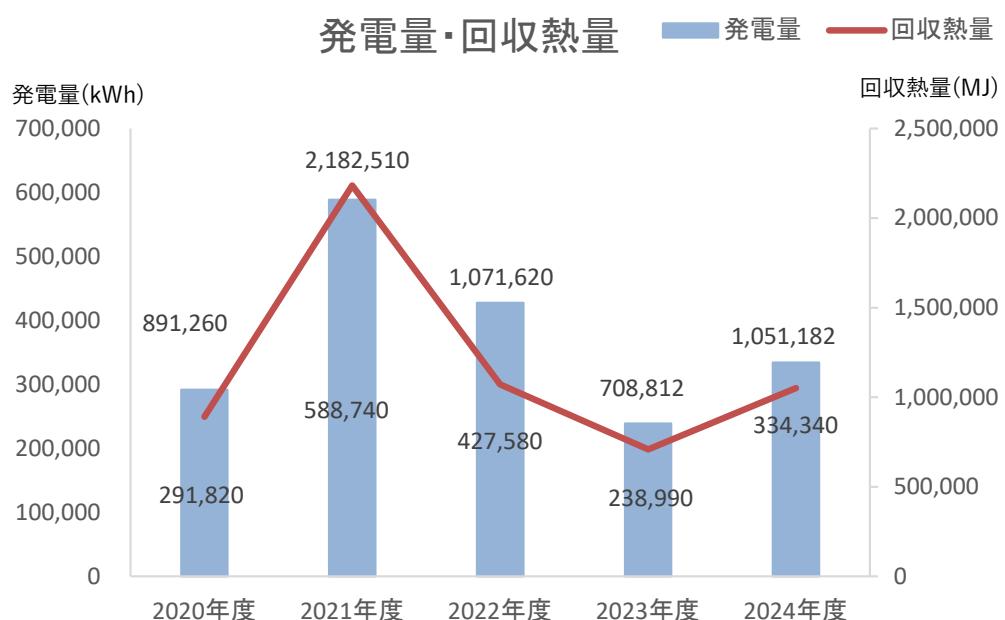
なお、コジェネレーションシステムによる過去5年における発電量及び排熱回収熱量は以下のとおりです。

2023年度は発電機熱流量計の不具合があり、排熱回収熱量が計測できない期間がありました。

2024年度は2022年度と比較して、発電量22%減、熱回収量2%減となりました。

<コジェネレーションシステムによる発電・排熱回収実績>

エネルギー種別	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
電力(kWh)	291,820	588,740	427,580	238,990	334,340
回収熱量(MJ)	891,260	2,182,510	1,071,620	708,812	1,051,182



コジェネレーションシステム概要図

■過去3年における紙購入量

本学では古紙資源のリサイクルに貢献する「リサイクルPPC」を使用しています。

過去3年度の購入量は以下のとおりです。

2024年度は2023年度の購入量に比べて20%増となりました。

<再リサイクルPPC用紙購入量の推移>

2022年度

	箱数	枚数
A3	327	490,500
A4	1,603	4,007,500
B4	45	112,500
B5	46	115,000
計	2,021	4,725,500

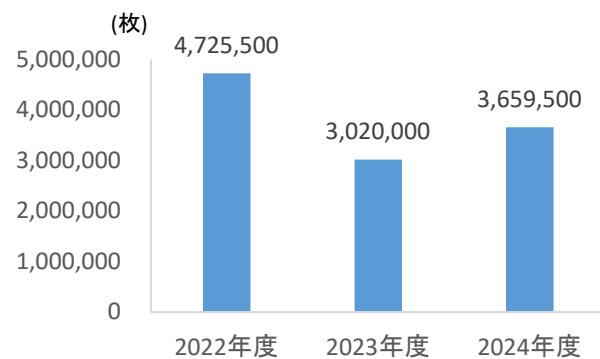
2023年度

	箱数	枚数
A3	130	195,000
A4	1,016	2,540,000
B4	24	600,000
B5	90	225,000
計	1,260	3,020,000

2024年度

	箱数	枚数
A3	108	162,000
A4	1,291	3,227,500
B4	38	95,000
B5	70	175,000
計	1,507	3,659,500

紙購入量



■過去3年における産業廃棄物排出量

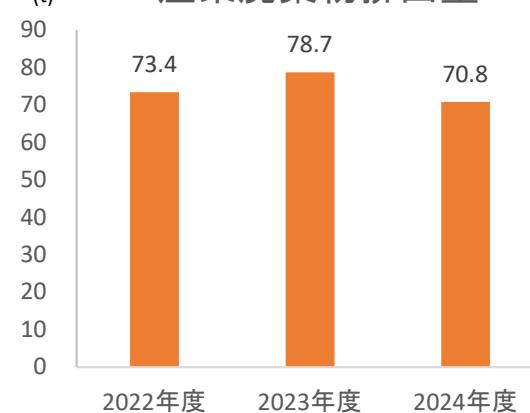
過去3年度の産業廃棄物排出量は以下のとおりです。

2024年度の排出量は2023年度と比較して10%減となりました。

<産業廃棄物排出量の推移>

種別	2022年度	2023年度	2024年度
産業廃棄物 (t)	73.4	78.7	70.8

産業廃棄物排出量



■ グリーン購入の状況

環境物品等の調達の推進に当たって、可能な限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めることとし、2025年4月に「環境物品等の調達の推進を図るための方針」を定めています。

環境物品等の判断基準を満たすものを調達すること、また、グリーン購入法適合品が存在しない場合について、エコマーク等が表示され、環境保全に配慮されている物品を調達することなど、可能な限り環境への負荷の少ない物品などの調達に努めました。

※グリーン購入法：国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律

国等の機関にグリーン購入（製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入すること）を義務付けるとともに、地方公共団体や事業者・国民にもグリーン購入に努めることを求めた法律。

<令和6年度特定調達品目調達実績(物品)>

分野	特定調達 物品等の 調達量
紙類 (kg)	9,880
文具類（個・冊・本・枚）	14,976
オフィス家具等（脚・個・台・連）	190
画像機器等（個・台）	770
電子計算機等（個・台）	514
オフィス機器等（個・台）	419
移動電話等（台）	2
家電製品（台）	18
エアコンディショナー等（台）	6
照明（個・台）	2,463
インテリア・寝装寝具（個・台・点・枚）	34
その他繊維製品（点）	7
役務（件）	164
ごみ袋等（枚）	10,005

■ 令和6年度における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の締結実績の概要

https://www.tufs.ac.jp/documents/abouttufs/outline/kankyoairyo_r6.pdf

■ 令和6年度における環境物品等の調達実績の概要

https://www.tufs.ac.jp/documents/abouttufs/outline/chotatsu_gaiyo_r6.pdf

3. 環境配慮への取り組み

■施設整備における省エネルギー対策

①照明器具LED化による省エネルギー対策

省エネルギー対策として、照明器具のLED化を計画的に進めています。2024年度に研究講義棟の5階から8階の照明器具改修工事により、府中キャンパスのLED照明の整備率は約70%を達成。R7年度には附属図書館、アジア・アフリカ言語文化研究所及び留学生日本語教育センターのLED照明の整備を予定しており、完了すれば約76%になる予定です



研究講義棟照明LED化前（教室）



研究講義棟照明LED化改修後（教室）



研究講義棟照明LED化改修前(ラウンジ)



研究講義棟照明LED化改修後(ラウンジ)

②高効率な空調機への更新による省エネルギー対策

- 工事箇所：研究講義棟 1階および2階 講義室および執務室

老朽化した空調機を改修し、より高効率な空調機を導入することで省エネルギー化を図りました。その他、小規模修繕にて府中キャンパスおよび本郷サテライトの空調機更新を実施しています。



研究講義棟 屋内機



研究講義棟 屋外機

～直近の空調設備改修工事(予定含む)～

	建物	改修年度 (予定含む)	代表的な部屋
①	留学生日本語教育センター棟	2023	1階、2階教室・さくらホール等
②	研究講義棟	2024	1階講義室・2階事務室等
③	アフリカ言語文化研究所 留学生日本語教育センター	2025	1、3~8階の会議室等 2~4階の教室

③太陽光発電設備による創エネルギーの取組

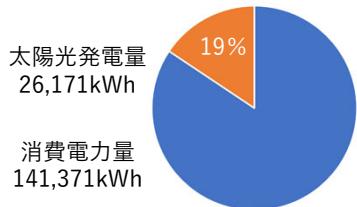
創エネルギーの取組として太陽光発電設備を2009年度に留学生日本語教育センター棟(発電出力：30kW)、2021年度に附属図書館(発電出力：30kW)、2023年度にアゴラ・グローバル(発電出力：40kw)に設置。

2024年度に、アゴラ・グローバルⅡ期工事として、40kWの出力を有する太陽光発電設備の増設完了。府中キャンパス全体で、合計140kWの発電出力の規模となりました。

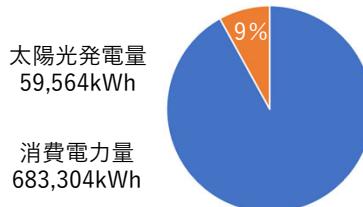


アゴラ・グローバル太陽光発電設備(Ⅱ期)

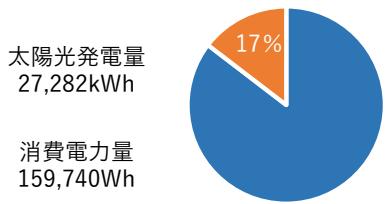
～2024年度太陽光発電再生可能エネルギー利用率～



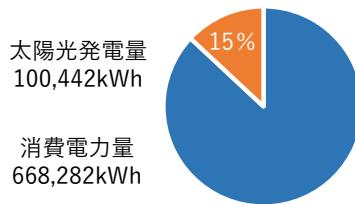
①留学生日本語教育センター棟
(2023年度)



②③附属図書館・
アゴラ・グローバル(2023年度)



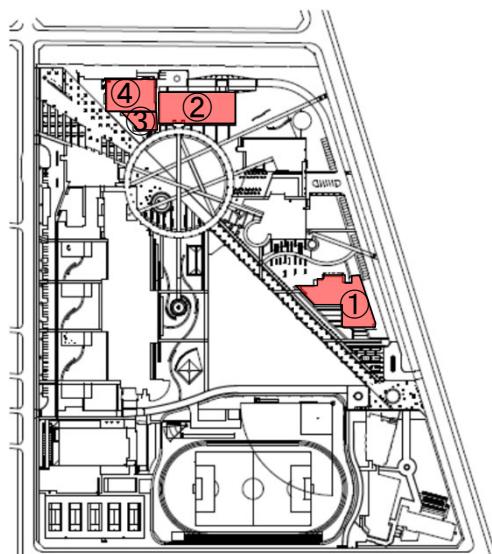
①留学生日本語教育センター棟
(2024年度)



②③附属図書館・
アゴラ・グローバル(2024年度)

附属図書館及びアゴラ・グローバルのグラフを、2023年度と2024年度で比較すると発電量は前年比1.6倍増の発電量となりました。なお、アゴラ・グローバルⅡ期工事完成時期は令和6年9月のため、5ヶ月分が反映されていない状況となっています。完成していれば太陽光発電量が1~2%程度増となり、環境負荷低減が可能であったと推測しています。

継続して設置可能な建築物屋上等に太陽光発電設置を推進し、再生可能エネルギーの活用に取り組んで参ります。



稼動設備

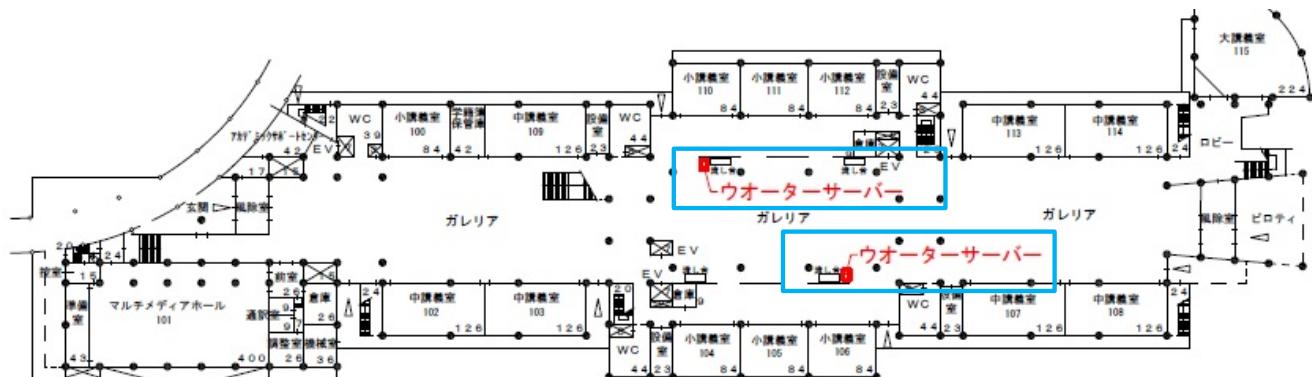
	設置場所	設置年度	発電出力
①	留学生日本語教育センター棟	2009	30kW
②	附属図書館	2021	30kW
③	アゴラ・グローバル	2023	40kW
④	アゴラ・グローバル(Ⅱ期)	2024	40kW

～太陽光発電設備配置図～

■マイボトル用浄水給水機について

水道水を活用する環境負荷の低い浄水給水機を、2022年度に研究講義棟1階に2台、2023年度に附属図書館2階リフレッシュコーナーに1台設置しました。

浄水給水機を設置することにより、ペットボトル等のプラスチックごみの排出量削減と持続可能な社会の形成に向けた取組を行っています。



浄水給水機設置場所

4. その他の取り組み

■グラウンド人工芝敷設

本学が府中キャンパスに移転して20年余りが経過し、体育授業、体育系課外活動等に使用している屋外運動場の衛生面や安全面について懸念がありました。学生の体育授業、課外活動における良好な運動環境の提供、土煙の抑制や怪我の予防、雨天後の使用効率向上のため、人工芝敷設を計画。2024年3月末に人工芝グラウンドが完成しました。芝刈りおよび水やりなどの作業が無くなり、作業に伴う環境負荷を軽減しました。



■グラウンド人工芝マイクロプラスチック流出対策調査

目的

人工芝グラウンドは、長期間の使用や紫外線による経年劣化に伴い、千切れた人工芝や充填材のゴムチップがマイクロプラスチックとなって河川や港湾へ流出し、海洋汚染につながる可能性が指摘されています。この問題を受け、本学では2024年9月に人工芝グラウンドからのマイクロプラスチック流出状況を調査しました。

本学の排水設備

本学の雨水排水設備は公共下水道に接続されておらず、敷地内で浸透処理を行うことで河川へ直接放流しない方式を採用しています。

調査方法

流出状況の監視を行うため、人工芝グラウンド周辺の集水枡4箇所にヤシマットを設置し、捕捉した人工芝片やゴムチップの量を計測。また、排水枡等の状況を調査することで、グラウンド周囲へのマイクロプラスチックの流出状況及び流出経路を調査。

調査期間:6ヶ月

今後の取組

調査の結果、損耗して千切れた人工芝片は確認されませんでしたが、人工芝グラウンド周辺の排水枡や側溝にゴムチップの流出が確認されました。本学の雨水排水は敷地内で浸透処理を行っており、河川への流出の可能性は低いと考えられます。

今後も敷地外への飛散や河川への流出を防止に留意してまいります。

取組「カーボンニュートラルに向けて」

目標

教職員・学生と協働で地球温暖化対策を推進し、大学が使う全ての電力について、2030年度までに自然エネルギー電力へ転換（生産または調達）することを目指す。

計画・取組

● 再生可能エネルギーの活用に向けた取組

(1) 太陽光発電等の導入の推進

設置可能な建築物屋上等に太陽光発電設備を設置することを目指す。

- ・研究講義棟（約20kw）、屋内運動場（45kw）

※全体約159kw（数値は2,021年7月調査・検討による）

(2) 新築・既存建物大規模改修における整備

本学が新築・既存建物大規模改修（内外装全体改修程度）においては、太陽光発電設備設置を推進する。

● 電力の調達や機器の購入・使用に当たっての取組

(1) 再生可能エネルギー電力調達の推進

2030年度までに本学で調達する電力を再生可能エネルギー電力とすることを目指す。なお、太陽光発電設備設置やLED照明への更新、教職員・学生における省エネ活動等においてエネルギー使用削減に努め、調達する電力量のさらなる削減を図っていく。

(2) 高効率設備機器改修工事の推進

改修工事において高効率な空調機器、照明などに更新することで。

(3) 省エネルギー型機器の導入等

エネルギー消費の多いパソコン、コピー機等のOA機器及び、電気冷蔵庫等の家電製品等の機器について、省エネルギー型のものへの切り替えを推進する。

※上記に内容については、2021年度の計画・取組

● 学生団体の活動“たふえね”

本学、教科目のひとつである。「環境・エネルギー問題の動向と展望」を2021年春学期に受講した学生のうち、環境問題や省エネ・再エネに関し活動すべく、有志を中心に行なう学生団体“たふえね”が立ち上がった。大学の正式なサークルとして、2022年春に認定され、活動としては、自然エネルギー大学リーグへの学生会員への入会・参加や他大学生との情報交換、昼休みに音楽団体と共に演による在学生への呼びかけ、また教室の照明消灯を促すステッカー作りを自らデザインを考え作成する等、積極的な活動を行っている。

現在10数名の学生有志で活動しており、今後活動の輪を広げ、本学約4,300名の学生へ波及していくことで、省エネに対する意識や環境問題への取り組みが全学的に進められることが期待できる。

● 建築物の建築、管理等にあたっての取組

(1) 建築物における省エネルギー対策の徹底

- ・建築物を新築、大規模改修する際は、省エネルギー対策を徹底し、温室効果ガスの排出の削減等に配慮したものとして整備する。
- ・高効率空調機、LED照明等を可能な限り幅広く導入し、温室効果ガスの排出の少ない設備の導入を図る。
- ・冷暖房の適正な温度管理を図る。（冷房の場合は28度程度、暖房の場合は20度程度）

(2) 新しい技術の導入

- ・高いエネルギー効率や優れた温室効果ガス排出削減効果などを確認出来る技術を用いた設備、あるいは、エネルギーについても、導入可能性について検討を行い推進する。

過去のCO2排出量と今後の削減イメージ





本報告書の対象範囲

- ・報告対象組織
- ・報告対象期間

国立大学法人 東京外国语大学
2024年4月1日～2025年3月31日

東京外国语大学 2025年度版 環境報告書

発行年月 令和7年（2025年）11月

問い合わせ先 国立大学法人東京外国语大学 総務企画部 施設企画課

TEL 042-330-5141 FAX 042-330-5420

Eメール shisetsukikakuka@tufs.ac.jp

大学ホームページ <http://www.tufs.ac.jp/>